

「平成 27 年度 山梨県総合教育センターの研究概要」

1 研究に対する基本的な考え方

- (1) 山梨県総合教育センターの基本方針を実現するための研究であること
- (2) 国や本県の教育施策に対応した研究であること
- (3) 本県の学校教育の現状を踏まえた今日的な課題解決のための研究であること
- (4) 職務としての研究であること

2 研究の方法

- (1) 研修主事は、それぞれに研究課題に応じた研究主題を設定し、研究を推進した。適応指導教室については、石和・韮崎・都留こすもす教室の実践をまとめた。
- (2) 研究グループを編成し、部長・スタッフ主任をグループアドバイザーとして位置づけた。
- (3) 研究日（月 2 回程度）にはグループごとに研究会を実施した。また、中間発表会・所内発表会を開催し、進捗状況を共有するとともに、研究内容の深化を図った。
- (4) 山梨大学との連携・教育研究会の活動の一環として、当該教授等から研究に対する学術的な見地からの指導をいただいた。
- (5) 研究協力校・研究協力員を委嘱し、学校現場での活用につなぐ実践的研究をめざした。一部の研究では、研究協力校における検証授業を公開した。
- (6) 一般留学生は、それぞれに研究課題に応じた研究主題を設定し、本センター研修主事による指導助言及び研究協力校及び研究協力員の協力のもと、研究を推進した。

3 研究の内容

(1) 全体テーマ

「学校教育を支援する実践的研究」－確かな学力の育成を目指して－

本センターの研究分野における使命は、本県の学校教育への支援を行うことである。すなわち、本センターが県内の公立学校を対象に毎年実施している「教育課題調査」の結果や「全国学力・学習状況調査」「県学力把握調査」「県教育課程実施状況調査」等の各種学力調査において明らかになった課題等を踏まえ、学習指導要領や「新やまなしの教育振興プラン」「山梨県学校教育指導重点」に掲げられた目標の実現に向けた研究を行うことである。特に本年度は、本県児童生徒の確かな学力の育成に資する研究を推進することに重点を置くこととした。

本研究における「確かな学力」とは、学校教育法や学習指導要領に示されている以下の 3 つの事項を基本として捉えた。

- 基礎的・基本的な知識・技能
- 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等
- 主体的に学習に取り組む態度

具体的な研究としては、①「教科や領域における単元の指導計画や教材を作成し、その有効性を検証し、具体的な指導モデルを提示すること」、②「特定の課題についての調査や事例の収集を行い、結果を分析・考察し、課題の解決や改善に向けた手がかりや指導モデルを提示すること」を想定した。いずれにおいても、学校での活用につながる具体的で実践的な研究となるよう配慮した。併せて、研究の成果を本センターの研修会や相談業務の充実につなげ、学校教育を支援するという視点を大切にしたい。

(2) 研究領域・研究課題・研究グループ・研究主題等

【研修主事による研究】 ※<C-1><C-2>と<D-1><D-2>は合同でグループを編成

研究領域	研究課題 (研究グループ)	研究数
A 教育課題研究	<A-1> 「確かな学力の育成 (国語教育)」に関する研究	4 研究
	<A-2> 「確かな学力の育成 (理数教育)」に関する研究	4 研究
	<A-3> 「確かな学力の育成 (音楽・技術教育)」に関する研究	2 研究
B 相談支援研究	<B-1> 「安心して学習に取り組める環境づくり」に関する研究	4 研究
	<B-2> 「特別支援教育の充実」に関する研究	4 研究
C 情報教育研究	<C-1> 「I C Tの活用」に関する研究	3 研究
	<C-2> 「情報モラル教育」に関する研究	1 研究
D 教育課程実施 状況調査研究	<D-1> 「小6 社会・中3 社会」に関する研究	1 研究
	<D-2> 「中3 英語」に関する研究	1 研究

【A 教育課題研究】

□ 「確かな学力の育成 (国語教育)」に関する研究

研修主事	研究主題・副主題
田邊 秀樹	主体的に学び、思考力・判断力・表現力等の向上を目指した国語科授業モデルに関する研究－「読むこと」領域における「単元を貫く言語活動」の充実を通して－
小倉 正一	生徒に「創作の楽しさ」を体得させることができる授業モデルの開発に関する研究－「酒折連歌」の創作活動を通して－
羽田 孝行	確かな学力の育成を図る古典 (漢文) の授業モデル開発に関する研究－四面楚歌の授業用テキストづくりと検証授業を通して－
橋田 浩	主体的に学び、思考力・判断力・表現力等を高めるための国語科指導モデルに関する研究－高等学校国語の古典分野における、言語活動の充実を通して－

□ 「確かな学力の育成 (理数教育)」に関する研究

研修主事	研究主題・副主題
雨宮 友成	中学校数学科における数学的な思考力・表現力の育成に関する研究－記述式問題を取り入れた指導計画と授業の改善－
小河内照仁	高校数学における問題解決能力の育成－アクティブ・ラーニングの効果的な活用－
篠原 弘一	小学校理科教育の確かな学力の定着を目指した指導の工夫－発展的な学習課題を取り入れた授業づくり－
須田 浩孝	中学校理科教育の充実を目指して－言語活動やI C Tの有効活用を取り入れた単元の指導モデルの作成－

□ 「確かな学力の育成 (音楽・技術教育)」に関する研究

研修主事	研究主題・副主題
鶴田 心	「思考力・判断力・表現力」を高める授業の在り方－音楽科における学び合いの授業の提案－
武井 俊文	中学校技術分野の充実を目指して－生物育成に関する技術を活用した栽培 (L E D溶液栽培) を通して－

[B 相談支援研究]

□「安心して学習に取り組める環境づくり」に関する研究

研修主事	研究主題・副主題
中村 尚志	不登校児童生徒への対応と支援に関する研究 －面接相談事例の分析を通して見えてくるもの－
赤岡 玲子	保護者の視点から見たいじめの問題に関する研究 －いじめを主訴とする電話相談記録の質的分析を通して－
佐藤 丈	いじめがどのように解決に至ったのか －いじめ解決事例集の作成を通して－
一瀬 英史	いじめ・暴力予防プログラムの開発 ーストレスマネジメント教育といじめ解決大作戦BIGによるプログラムの効果検証と「特別の教科道徳科」における位置づけの検討ー

□「特別支援教育の充実」に関する研究

研修主事	研究主題・副主題
小佐野勝彦	「特別支援教育」の充実に関する研究 －高等学校における支援の充実に関する研究－
小林 勝	「特別支援教育」の充実に関する研究 －高等学校におけるユニバーサルデザインに関する研究－
佐野ますみ	「特別支援教育」の充実に関する研究 －特性に配慮した学習支援に関する研究の推進－
青嶋 昌子	「特別支援教育」の充実に関する研究 －個別の支援における、専門家および専門機関との連携に関する研究－

[C 情報教育研究]

□「ICTの活用」に関する研究

研修主事	研究主題・副主題
中村 英彦	教科指導におけるICTの効果的活用 －小学校国語科でのICT授業デザインを活用した授業づくり－
鈴木 克志	高校数学科の授業におけるICT活用に関する研究 －微分概念に基づいた高次関数の理解を目指して－
中澤 透	工業高校の専門教科におけるICTを活用した授業 －基礎学力向上のためのICT活用－

□「情報モラル教育」に関する研究

研修主事	研究主題・副主題
吉田 恵子	高等学校における減災ツールとしてのスマートフォンの活用 －スマートフォンのポジティブな活用を焦点をあてた情報モラル教育の実践－

[D 教育課程実施状況調査研究]

□「小6社会・中3社会」に関する研究

研修主事	研究主題・副主題
長田 英和	確かな学力の定着を目指した学習指導の在り方－教育課程実施状況調査の結果を分析し、確かな学力の定着のため、各校で取り組める社会科の授業改善プラン提案－

□「中3英語」に関する研究

研修主事	研究主題・副主題
井上 耕史	確かな学力の定着を目指した学習指導の在り方ー教育課程実施状況調査の結果を分析し、確かな学力の定着のため、各校で取り組める英語科の授業改善プラン提案ー

【道徳教育研究】※業務の関係で年度途中より取り組んだ研究

研修主事	研究主題・副主題
菊島 圭一	高等学校における道徳教育の充実に関する研究 ー高等学校道徳教材『自分との出会い』の活用を通じてー

【適応指導教室の実践】

こすもす教室主幹	研究主題・副主題
寫本三夫（石和） 志村健司（葦崎） 渡邊雅彦（都留）	適応指導教室の運営とその実践 ー個に応じた支援と連携を目指してー

【一般留学生による研究】

□「言語活動の充実」に関する研究

一般留学生	研究主題・副主題
橋田昌樹	思考・判断・表現する力を高める国語科指導の在り方に関する研究 ー説明的な文章における単元を貫く言語活動の充実を通してー

□「教育相談」に関する研究

一般留学生	研究主題・副主題
岩下和子	教育相談的なアプローチによる自己効力感と学習意欲の向上に関する研究 ー授業における教師の関わりの工夫を通してー

4 研究の成果と課題

（1）成果

- ◇確かな学力の育成を目指した、教科指導に関する実践事例（単元の指導及び評価計画・授業展開例・学習プリント・評価プリント等）を提示することができた。
- ◇いじめ・不登校の予防や解決、特別支援教育の充実、情報モラル教育に関する手がかりや指導モデルを提示することができた。

（2）課題

- ◇検証授業の公開を実施したが、公開数は十分とは言えない。授業モデル等の学校への浸透につながる検証授業の公開を拡大する必要がある。
- ◇研修会の企画や出前研修での講義・演習の充実につながる、教科指導及び教育相談・特別支援教育等に関する研究をより深化させる必要がある。